

先日は、幼児教育部の子ども達に教材・教具を作成して頂きありがとうございました。長い夏休みを過ごして登校した子ども達は、新しい教材・教具に興味津々で、この二週間、設定した時間の中で取り入れたり、普段の遊びの中で使わせて頂いたりと楽しみながらたくさん遊ばせて頂きました。どの教材・教具も皆さんが幼児教育部の子ども達に思いをはせながらいろいろ試行錯誤して作成した様子が伺え、職員も子ども達と一緒に感心しながら楽しませて頂きました。以下に、各教材を使用した感想をあげておきますのでどうぞご覧になっていただきたいと思います。

迷路

- ・タンバリンや鈴など、子ども達に身近な音を取り入れられたので、楽しみながらボールを転がせた。
 - ・友達や職員と一緒に楽しく、仲間意識を育てる教材となっている。
 - ・色・模様など子ども達の興味を考え、デザインされていた。
- 音の出るボールにしたり、自分が持っている所にボールが来たらその場所で音がでると全盲の幼児にも転がっていく方向が更につかみやすい。
- 本体を持つのが難しい子ども達の場合は、床において自分達がボールを転がして遊ぶようにした。

しまこ

- ・椅子のフワフワ感が心地良く手足を乗せる取っ手が付いているので、安心して乗っている。
 - ・しましま模様が目立って、幼児が見つけやすかった。
 - ・キャスターの動きが大変なめらかである、ゆったりと乗りやすく、心の安定を図れた乗り物となった。
- 首の部分が低めになると幼児があごをのせられるので、幼児の表情を見ながら移動できる。
- 後方に倒れるのを予防できるシートベルトなどが付いていると、安全度が増す。

カラーコーン

- ・色の配色（緑や真綿の白）がきれいなうえ、幼児の好きなクリスマスツリーのイメージがありなじみやすい。
 - ・ビー玉を入れる入り口が2箇所あることで、目と手の協応を育てる教材となった。
 - ・ビー玉が転がる筒の長さが長く、転がっていく様子を最後まで集中して聞いていた。ゴールの鈴にぶつかる音が心地よい。
- 転がっていく音の大きさがもう少し大きいと、ビー玉の動きがわかりやすい。
- ビー玉がつまりやすく、途中で止まってしまうことが多かった。

シンデレラ

- ・細かな色彩、手の込んだ細工は、女の子や弱視の幼児にとって興味を持ちやすく、お姫様を自分にあてはめ想像することができ大変嬉しかったようだ。
- ・エプロンをめくり靴を置いてくる場面は、遠近感のある階段の雰囲気表現されており、とても印象的で迫力が感じられた。
- ・身近なエプロンを使って繰り広げられるシンデレラの物語に、いつお姫様になるのか、魔女がどこから出てくるのかなど絵本では味わえない楽しさがあった。
- 服の着替えは、スナップよりマジックテープの方が短時間で取り替えられる。
- 台本の内容はもう少し会話が多いと、興味をひきやすく全盲の児童にもわかりやすい。

足の感覚

- ・同じ感覚の材質を見つけたり、足を乗せたり、順番に歩いたり幼児に合わせた遊び方ができた教材であった。
- ・つるつる、ざらざら、フワフワ、でこぼこ子ども達にわかりやすい表現で伝えられる材質が取り入れられていた。子ども達が呼びやすいように、「ザラ・つるゲーム」と名づけた。
- ・ボタン・粘土での凹凸・スポンジなど、これから点字ブロックを使用する幼児には、足の平の感覚を自然に育てる良い教材となった。
- スポンジなどの接着が弱くはがれてしまうので、補強度がませばよい。

パチンコ台

- ・玉が当たると音楽が流れるアイデアが良く、期待感が高まった。
- ・棒を持って離すというタイミングや手の動きを習得でき、指先の感覚を養う事ができた。
- ・広い面から穴を探してビー玉を入れるので、探索活動を促すことができた。
- 棒の先に丸い玉（木琴などをたたく棒のようなもの）が付いていると、幼児がパチンコ玉をはじきやすい。
- 棒をはじくゴムの部分は使用頻度が多いので、補強策を考える必要がある。

・は、良かった点。

○は、改善点。